

## 雙葉中-対策法

### 社会 (50点/25分)

#### 【1】【2006年出題内容】

2006年は、大問Ⅰが歴史・地理融合問題、大問Ⅱは近世の産業、大問Ⅲは日本の農業、大問Ⅳは人権・時事問題が出題されました。問題数は31題と例年並みで、25分という制限時間内で解き切るには手際よさが重要です。

本年度で雙葉らしい問題といえば、大問Ⅰです。次の問題をみてください。

- Ⅰ 歴史が好きな花子さんは、夏休みに博物館に行き、展覧会を見学してきました。花子さんが興味をもった出土品・絵画・史料などに関する次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

「日本のあけぼの」という展示室で、岩宿遺跡から出土した石器や、野尻湖の遺跡から出土した石のナイフやナウマンゾウの骨、オオツノジカの角などを見学した花子さんは、この頃の地球の気候が現在よりも寒く、日本列島と大陸とが①【 】ため、もともと大陸にいたナウマンゾウやオオツノジカが日本に来ることができたということを知りました。そして、この時代の人びとがまだ農耕を開始しておらず、石でつくった道具で動物を狩って食料にしていたことを理解しました。

次のコーナーには②三内丸山遺跡から出土したものがたくさん並んでいました。植物で編んだポシエットやヒスイの玉などの多様な出土品を見て、花子さんは思っていた以上にこの時代の人びとの生活が豊かだったことを実感しました。先へすすむと、③板付遺跡や登呂遺跡などの出土品が展示してありました。日本の石包丁のとなりには、朝鮮半島から出土したさらに古い時代の石包丁が並べてありました。日本と朝鮮半島の道具がそっくりだったので、花子さんは大変驚きました。

「平城京と貴族」という展示室では、④都の跡から出土したたくさんの木簡に興味をひかれました。そのなかには、大豆・わかめなどに付けられていた荷札がいくつもありました。説明文には、「これらの荷札は、全国の農民が納めた税につけられていた。税は、農民自身が、往復の食料を自分で用意して都まで運ばなければならなかった」と書いてありました。

⑥「武士と民衆の生活」という展示室では、⑥鎌倉時代の東国武士の農村での日常生活などを描いた「男衾三郎絵巻」を見ることができました。武士が三人がかりで弓のつるを張ったり、武具の手入れをしたりしている、教科書に載っていた部分だったので、花子さんはとても感激しました。

次に花子さんは、室町時代の風俗を描いた「月次風俗図屏風」に注目しました。これも教科書に載っていました。⑦田植えをする女性たちのそばで笛やたいこにあわせておどる人びとや、牛や馬を使った農作業の風景など、この時代の農村の姿が生き生きと描かれていました。

「天下統一への道」という展示室には、織田信長や豊臣秀吉が出した命令文が並べてありました。その一つには、「諸国の百姓が刀、槍、鉄砲などの武器をもつことをかたく禁止する。百姓が必要のない道具をもっていると、年貢をだししぶり、⑧一揆をくだして、領主によくないことをするようになる」と書いてありました。そのほかに、秀吉が朝鮮を二度にわたって攻めたときに日本につれて来られた人びとやその子孫によってつくられた⑨ものも展示してありました。

## 【2】 【 傾向と対策 】

上の問題は、旧石器時代から戦国時代までの広汎な期間にわたるリード文を読ませて、骨太な理解を問うものです。こうした出題形式は、平成17年Ⓐ、平成16年Ⓐ、平成12年Ⓐ、平成10年Ⓐ、平成8年Ⓐの流れを汲むものであり、また、出題内容は文化・外交・産業が中心です。文化史、外交史など、一つのテーマについて縦断的に学習しておく必要があります。

出題形式については多肢選択式が中心で、選択させる方式は「正しいものを選べ」「正しくないものを選べ」「並べ替えたあと最初から3番目を選べ」など紛らわしいのが特徴です。あせっていると誤りやすくなっていますから、問いの核心部分には下線を引いて強調するなどしながら読まなくてはなりません。各の長さは慶應系列校などに見られるものより長く、知識そのものよりも背景を問うものが多いといえます。できれば、筑駒の過去問もやっておくとよいでしょう。

図表の読み取りは必ずできますから、普段から図表の意味・特徴を説明する訓練をしておきましょう。

## 【3】 【 雙葉社会 合格への道程 】



合格可能性 80%



合格可能性 50%



合格可能性 10%

偏差値 (四谷)	51~55	56~60	61~65	66~70
君の学年				
5年生の2学期				
5年生の3学期				
6年生の1学期				
6年生の2学期				

雙葉の80%合格圏(4科)は、四谷大塚で偏差値66以上、センター模試で偏差値63以上、サピックスで偏差値56以上、が目安です。

理科と同様、雙葉の社会は、思考力を問う問題も知識を問う問題もバランスよく出題されます。そのため、まぐれで高得点をとることは困難です。白地図を作ったり、年表を作ったりするなど、地道な勉強こそが雙葉合格のための最短距離といってよいでしょう。

また、疑問があれば調べるなり質問するなどして解決する姿勢が大切です。